

# 令和2年度 事業報告

## 1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

### 1) 関連研究プロジェクト

(八木会長)

計画承認後に発生した新型コロナ感染症拡大とこれに対する対応により、対面式での各種事業での実施を予定していた聞き取り調査や質問紙調査等が困難となったこと、また成果の発表場面として想定していた第19回 IAPESGW 東京大会を中止したことにより、計画を大幅に変更しての取り組みとなった。

<変更前>

(1)研究タイトル『世代を超えて育まれるダンス・スポーツへの態度』

(2)申請者：(公社)日本女子体育連盟理事会

(3)研究背景：体育・スポーツ、ダンスとの出会いや、その継続に、学校教育が重要な役割を果たしていることは当然であるが、生涯にわたって「する・みる・ささえる」多様な関わりを促進するにあたって、家族、とくに両親からの影響もあるはずだ。こうした影響関係、とくに母親が果たす役割を知ることは、内容ごとに情報発信のターゲットを特定した生涯スポーツ振興戦略を考える上でも重要である。世代を超えて継承されてゆくスポーツ・ダンスへの態度とその影響要因について探求する。

【1年目】質問紙調査ならびに聞き取り調査

① 先行研究の渉猟と質問項目の検討。

② 質問紙調査：各学校種、生涯スポーツの現場（つまり我々の職場やフィールド）で実施。

③ 聞き取り調査：サマーセミナー会場等で参加者への聞き取り調査。アスリート、ダンサー、指導者（我々自身も含め）への聞き取り調査。

【2年目】① 情報の整理と分析。② IAPESGW 東京大会において成果発表。③『学術研究』に投稿（「報告」程度）。

<変更後>

(1)研究タイトル『With コロナでのダンス指導』

(2)申請者：(公社)日本女子体育連盟理事会

(3)研究背景：感染症拡大の社会状況によるダンス指導の際の課題を整理し、ニューノーマルなダンス活動を提言してゆく必要がある。コロナ禍だからこそ気づけたダンスの素晴らしさ、オンラインや対面でのダンス指導の工夫や事例を収集するとともに、条件・場面に応じて参考にできるように、また広くアクセスできるような形式で発表することを目的とした。

(4)研究成果：理事会構成メンバーを中心にインターネット調査により情報を収集し、得られた情報を①With コロナだからこそ気づけるダンスの素晴らしさ、②オンラインでのダンス指導、③具体的な指導例—対面指導実施に向けて一、の観点で整理した成果物を連盟ウェブサイトで公開した(2020年11月)。

### 2) 加盟団体との共同研究

(八木会長)

【新規】 鹿児島県学校体育女子体育研究会（共同研究者：寺山由美）

研究テーマ「表現・ダンス授業の『主体的、対話的で深い学び』～ダンスの『知識』を問う～」

2022年度全国大会に向けて、本来であれば2021年度から共同研究を開始するところを、1年前倒し3年間の共同研究を計画した。しかしながら、新型コロナ感染症拡大により、全国的に学校一斉休校が行われた期間があった他、県境を越えての往来が困難となったため、その内容を進めることができなかった。

## 2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

### 1) サマーセミナー

#### JAPEW SUMMER SEMINAR 2020-令和2年度夏期講座- Web開催

□生涯スポーツ/授業・保育専門委員会(佐藤常務理事、細川常務理事、古関理事、國川理事、田中安理理事)

【公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業】

期 日 2020年11月14日(土)・15日(日)

※学校体育コースは、10月17日(土)より「継続講習」のみ配信開始

※共通講習(一部)は、11月14日(土)より11月30日(月)までオンデマンド配信

後 援 スポーツ庁 東京都 (公財)日本スポーツ協会 (公財)スポーツ安全協会  
(公財)ミズノスポーツ振興財団 (公財)日本学校体育研究連合会

会 場 ※今年度は、Web開催のため、コース毎に、下の会場よりライブ配信を行った。  
生涯スポーツコース 帝京大学八王子キャンパス トレーニングセンタースタジオ  
学校体育コース (有)Mエンタープライズ スタジオ(さいたま市大宮区)

内 容 講演、講義、実技、等

参加者 全国の幼稚園・保育園、小学校・中学校・高等学校、特別支援学校、大学、生涯スポーツなどの指導関係者、大学生等

参加費 生涯スポーツ(テキスト・DVD参加)(2日間):会員6,600円、一般8,800円、学生3,300円  
学校体育コース(1日毎):会員3,300円、一般4,400円、学生1,650円

継続講習は全4回を一日として受け付

※会員=正会員・特別会員および『女子体育』定期購読者

#### <概要>

今年度は東京オリンピック開催予定による会場使用変更のため、初の11月開催となった。また、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染予防対策を重視し、対面方式ではなく初のオンラインによるWeb開催とした。今回のメインテーマは「ダイバーシティ(多様性)とダンス」とし「レジリエンス(折れない心)」をサブテーマに掲げて、コロナ禍にも負けることなく活動されている全国の指導者の方々に、エールを送り生きる力の一助として頂くために、様々な新しい試みをした。開催1か月前には、両コース委員によるプロモーションビデオを作成配信することで、11月開催へのアプローチとし、またその際にリモートダンスの一部を公開し完結はセミナー当日に両コース共通プログラムとして講習を行った。特に、Web開催の特徴を活かし受講者参加型のZoomによるライブ配信や、場所や時間の制限を受けずに期間内に何回でも視聴できるオンデマンド配信が取り入れられたことは、参加者から大変好評であった。なお、生涯スポーツコースは参加者の年齢を考慮し、基本的参加をテキスト・DVDで受講する形式に変更し、当日のWeb参加は任意とした。学校体育コースは新たな試みとして、「継続講習」を実施した。なお、例年同時に開講される教員免許状更新講習は実施を見送った。

参加者の内訳は、生涯スポーツ(2日間)118名、会員83名(一般会員35名 DMIL指導者48名) 一般25名 学生5名 本部4名 JAPEW賞1名、延べ参加者数は236名であった。内訳はテキスト/DVDのみ参加50名 Web参加68名であった。学校体育コース申し込み総数は、50名(会員32名、一般6名、学生4名、JAPEW賞2名、本部役員6名)、3日間の延べ参加者数は、87名であった。

両コース合同の「共通講習」では、ペップトークの講演を岩崎由純氏による「折れない心を育てるポイント」、八木ありさ会長による「今こそ生きるダンスの力」の講義がオンデマンド配信された。また、Zoomによりライブ配信された実技の共通講習「みんなでつながろう!リモートダンス」では、両コースの多田五月委員、眞野郁実委員が担当し、画面上ではあるが、全国の参加者と『コロナ撃退ダンス』を共に踊ることができた。

学校体育コースでは初の試みとして、開催日前に赤堀文也氏を講師として「リズム系ダンス(主にヒップホップのリズム)の授業づくり」を行った。10月17日から11月7日までの間全4回に渡る継続講習を、毎週土曜日に動画を公開し3回分をオンデマンドによる講習とし最終回を、zoomによるライブ配信とした。11月14日は、2つの講習をオンデマンド配信した。講習①は「部活動に活かせる表現法~創作ダンス作品における

音響効果～」をテーマとし、音楽家：竹本仁氏、高等学校ダンス部の指導者：市川裕子氏、大学ダンス部の指導者：細川江利子氏から、それぞれの立場でテーマについての解説や実践報告がなされ、竹本氏と細川氏によるディスカッションが行われた。講習②は「明日に活かせる表現法～ダンサーに学ぶ多様な表現」をテーマとし、パフォーマー・俳優であり高等学校ダンス部の指導も手掛ける五十嵐結也氏から、具体的な作品創作の過程や個が活きる表現法について、実技を交えながらの解説があった。11月15日は、2つの講習をzoomによるライブ配信にて実施した。講習③は「オンラインを活用した表現系ダンスの授業づくり」をテーマとし、小学生を対象とした実践を高橋和子氏より、中高生・大学生を対象とした実践を白井麻子氏より、オンラインでの様々な取り組みが紹介され実技講習が行われ、最後に、テーマについてのディスカッションが行われた。講習④は「幼児の身体表現～指導者養成における実践報告」をテーマとし、高野牧子氏より、テーマについての概要が示され、指導者養成に関わる立場から、新山順子氏、小笠原大輔氏、田中葵氏より、それぞれの実践報告がなされた。これらの内容を受けながら、テーマについて、4名の講師によるディスカッションが行われた。

生涯スポーツコースでは、全ての講習をZoom配信とし参加者との対話を大切にしたい。実技講習で使用する曲すべて（コロナ撃退ダンス含）を、使用目的が無制限の著作権フリー音楽素材にするという新たな試みを行った。また、コロナ禍における特別な試みとしての受講者参加型「ふれあいサロン～オアシス～」では、古関美保子委員長と生涯スポーツコースの委員が、全国から参加する受講者からの事前のインタビューを映像や資料にまとめ、当日は受講者の皆さんと「折れない心（レジリエンス）」を楽しく情報共有することをねらいとした。佐藤廣子氏による実技①ダンスムーブメントでは、「自分の体を磨く」～リズムエクササイズとしての動きづくり～をテーマに、また、飯田路佳氏による実技②ダンスムーブメントでは、「自分の動きを磨く」～リズムムーブメントからダンスムーブメントへ～をテーマに掲げ、曲調のまったく異なる5つの作品をライブ配信で指導を行い、時折、参加者に向け質問や感想などの言葉を交わし、双方向でコミュニケーションを取りながらの講習となった。当日終了と同時にオンライン開催に関するアンケートを実施し、またDVD送付の際にもアンケートを同封し、次年度の開催へのヒントを得ることが出来た。

## ■ 11/14・15 プログラム

### オンデマンド配信

9月末～	共通	プロモーションビデオ サマーセミナー専用ホームページで視聴
10/17～	学校体育	【継続講習】(全4回)「リズム系ダンス(主にヒップホップのリズム)の授業づくり」赤堀文也
11/14～	共通	【講演】「折れない心を育てるポイント」岩崎由純(一財)日本ハップトーク普及協会代表理事 【講義】「今こそ活きるダンスの力」八木ありさ(公社)日本女子体育連盟会長

		9:30～10:30	10:30～12:00	12:30～	13:00～14:30		
11月14日(土)	生涯スポーツコース	受付	【受講者参加型】 「ふれあいサロン～オアシス」 紙面・対面インユ-を中心 受講者みんなで顔を合せよう	【開講式】 会長挨拶 『JAPEW賞』 表彰 学校体育受付 12:00～	【実技①ダンスムーブメント】 「自分の体を磨く」 ～リズムエクササイズとしての動きづくり～ 講師:佐藤廣子	休憩	【講習②】「明日に活かせる表現法」 ～ダンサーに学ぶ多様な表現～ 講師:五十嵐結也
	学校体育コース				13:00～15:00 【講習①】「部活動に活かせる表現法」 ～創作ダンス作品における音響効果～ 講師:竹本仁、市川裕子 細川江利子		
11月15日(日)	生涯スポーツコース	受付	【実技②ダンスムーブメント】 「自分の動きを磨く」 ～リズムムーブメントからダンスムーブメントへ～ 講師:飯田路佳	受講者全員で 画面を通して 一緒にダンスをしましょう1	【共通講習】 「みんなでつながろう！」 リモートダンス」	休憩	【閉講式】 挨拶 来年のお知らせ
	学校体育コース	受付	【講習③】「オンラインを活用した 表現系ダンスの授業づくり」 講師:高橋和子、白井麻子		15:00～16:30 【講習④】「幼児の身体表現 指導者養成における実践報告」 講師:高野牧子 小笠原大輔、田中葵、新山順子		【閉講式】

## 2) 未来世代の研究発表会 第64回未来世代の研究発表会

□研究交流専門委員会（細川常務理事）

期 日 2021年2月11日（祝・木）9:00～21日（日）18:00  
方 法 web開催（オンデマンド）※パワーポイントにナレーションを入れた動画（10分以内）  
内 容 令和2年度卒業及び修了の学生による卒業論文・修士論文のweb発表  
参加者 大学生、教育関係者、会員、一般。合計127名  
参加費 無料

### <概 要>

この研究発表会は、3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による研究発表会である。例年は卒業生によるダンス発表会も行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症によりダンス発表は行わず、オンデマンドによる研究発表のみであった。発表参加大学は15大学、演題数は39題（卒論29題、修論10題）であり、演題数は昨年を上回った。閲覧者も学生・大学関係者のみならず一般・学校関係者も多く、とりわけ小学校教員が目立った。また、web開催ということで全国各地から閲覧があった。

発表申し込み、発表動画提出、閲覧申し込み、コメント回収などは全てGoogleフォームを用いたため、非常にスムーズに行うことができた。要旨集・プログラムは印刷せずにPDF配付としたことから、例年のように印刷期間確保のために提出期限を早めに設定する必要がなく、また印刷費も削減できた。また演題一覧のPDF上のリンクから動画に飛ぶ設定にしたのが好評であった。その反面、発表学生と指導教員にとっては慣れない動画作成において四苦八苦したという声もあった。

閲覧期間を10日間に設定していたが、閲覧申し込み締め切りに間に合わない方がいたり、既に閲覧した方が「指導する他の学生や同僚にも見せたい」といった問い合わせがあったりしたことから、閲覧期間の設定およびアナウンス、公開方法などは再考すべきである。

発表に対するコメント（全コメント数は85）は指導教員にも依頼し、全発表者に指導教員経由で送信した。本発表会自体に対するコメントも概ね良好であった。尚、発表者は必ず他の発表者に対して一つ以上コメントすることを義務化しても良かったという声があった。学生によるコメントも少なくとも無かったものの、「学生同士の交流の場」という意味では確かにそうすべきであった。

## 3) JAPEW-ダンスムーブメントセミナー 第15回JAPEWダンスムーブメントセミナー2020

□指導員制度専門委員会（佐藤常務理事、古関理事、岡本岡山県正会員代表）

※以下の内容で開催予定であったが、コロナ禍のため2021年度に延期となった。

主 催 （公社）日本女子体育連盟 岡山県女子体育連盟  
期 日 2021年2月20日（土）・21日（日）  
会 場 就実大学 就実短期大学

## 4) 「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」養成事業（略称JAPEW-DML）

□指導員制度専門委員会（佐藤常務理事、古関理事、田中安理理事）

### ①「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」養成講習会

<A級—第15回、B級—第20回、C級—第23回>

※以下の内容で開催予定であったが、コロナ禍で検定講習会の中止が決定し、それに準じ中止となった。

期 日 2020年11月14日（土）・15日（日）・16日（月）  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主 管 （公社）日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

## ②「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」検定講習会

※以下の内容で開催予定であったが、対面での講習を厳守しているため中止となった。

期 日 2021年1月9日(土)・10日(日)・11日(月・祝)  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

## ③「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」クリニック

※コロナ禍のなか対面での開催が不可能であった為、DVD視聴&アンケートの提出に代替えし実施した。

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会  
内 容 実技研修 (DVD視聴&アンケート)  
講 師 高橋真琴、八木ありさ、寺山由美、佐藤廣子  
受講者 A・B・C級 有資格者 62名  
受講料 会員 5,500円

<概 要>

今年度は養成講習会・検定講習会の開催を断念することとなったが、クリニック講習会は新たな試みを実施し、詳細については、『女子体育』2・3月号で報告した。

## 3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

### 1) 『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会(宮本常務理事、田巻以津香理事)

①刊行 隔月刊・年間6回とし、発刊は発刊月前月の25日発刊とした。

構成：通常号4本、特集号2本

②方針 2020年度も引き続き、通常号80頁、増刊号120頁、横書き、写真の掲載等、同様の方針で取り組んだ。

③購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円

④年間テーマ 「ダイバーシティ(多様性)とダンス」

2020年度は、2019年度に引き続き、ダイバーシティ(多様性)をキーワードに、発行していく。年齢や性別はもちろん学歴・職歴、国籍・人種・民族、性的指向・性自認、ライフスタイル、価値観の違いなどから人を制限せず、それぞれの個性を生かし最大限の能力を発揮させようというダイバーシティの考え方にに基づき、昨年度よりもさらに考えを深めていきたい。

オリンピック・パラリンピックの歴史や理念をひもとく「Welcome to TOKYO オリパラに向けて」は、2019年度より、新設したコーナーであるが、2020年度6・7月号までで終了し、8・9月号の特集号に発展させた。12・1月号からは、「コロナ禍の中のダンス」というコーナーをスタートさせ、2・3月号まで継続した。

⑤月テーマ

○4・5月号 「共に」を大切にする

○6・7月号 ダンスとの多様な関わりを探る

○8・9月号 特集1 もっと知りたいオリンピック・パラリンピック  
特集2 ダンスフォーラム2020 報告

○10・11月号 特集1 コロナ禍の中のダンス  
特集2 AJDF-KOBE オンラインダンスフェスティバル

○12・1月号 ありのままを受け容れる

○2・3月号 自分の変容を確かめる

⑥活動を振り返って

編集委員間のやりとり、印刷会社とのやりとりなどの編集活動のシステムにクラウドを利用し、執筆依頼か

ら最終校正に至る行程を整理してきたが、2020年度はそれが定着してきた。校正内容が反映されないといった、印刷会社とのやりとりミスが生じたことがあったため、相互チェックシステムを導入して、改善してきた。しかし、やはり、それぞれの編集委員と執筆者がどれくらい短期間にしっかりとした原稿についてのやりとりができるか、集まってきた原稿を正副委員長が適時にチェックをして印刷会社に入稿できるか、さらにその後の初校、2校、場合によって3校を経て、最終原稿に至る詰めを短期間に交通整理できるか、という人の力に負うところが大きいことを改めて認識した。

2020年度は、執筆者の決定を早めに確定することや執筆締め切り日に原稿を入手できるように努力することに注力した。しかし実際は最初の段階でなかなか執筆者が確定しない部分があったままのスタートとなり、作業は輻輳した。特に、8・9月号の特集1の全容についての細かい詰めが不足したままスタートしたことにより、最終チェックまでの十分な検討が不足し、タイトルを誤るという大きなミスを含み、複数のミスがあるままの発行になった。このうち一部分は印刷会社側のチェック漏れもあるが、それを把握できなかった編集担当の時間的な余裕の問題が浮き彫りになった。次年度も編集行程については引き続き改善を図りたい。

AJDF-KOBE 特集号は、コロナ禍の中でオンラインダンスフェスティバルとなり、毎年の特集のスタイルがとれなかったところで、通常号に近い「コロナ禍の中のダンス」を特集するという提案を受けた。例年は、AJDF-KOBE 号は、ダンスフェスティバルのみの特集であり、その発刊時期はAJDF-KOBE の開催に連動して通常とは異なっているため、AJDF-KOBE 委員に委託してきたが、今年の一部通常号に近い内容もありAJDF-KOBE 専門委員会のメンバーに負担をかけることとなった。次年度は、AJDF-KOBE の開催のスタイルなどに応じた特集号の内容について、早い段階で確認を行って臨みたい。

## 2) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』発行

□『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』編集委員会（高野美和子常務理事、中村理事）  
『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第37巻を刊行した。

## 4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

### 1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

#### 2020 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

～ つながろう ダンスの力で オンラインダンスフェスティバル ～

□AJDF-KOBE専門委員会（寺山常務理事、羽岡理事、熊谷理事）

期 日 2020年8月8日(土) 14時 ～ 9日(日) 16時

主 催 (公社) 日本女子体育連盟 神戸市 神戸市教育委員会

内 容 開催期間中、YouTube AJDF特設チャンネルにて作品を公開

- ①作品応募 a. 文字で踊ろう：ダンス川柳 b. 写真の中で踊ろう：コラージュ  
c. 離れて踊ろう：フィジカルディスタンスダンス（動画） の3つの部門を設定

#### ②当日鑑賞

\*作品応募・当日鑑賞共に、2020年4月に本大会への参加申込を完了した高校・大学の学生（顧問含む）のみ申し込み可能

参加校数	①ダンス川柳	高校／13・139校、大学／12・109校	計 25校 248校
	②コラージュ	高校／9、大学／13	計 22校
	③フィジカルディスタンス	高校／19、大学／22	計 41校
	④鑑賞のみ	高校／10、大学／3	計 13校
参加人数	(鑑賞のみも含む)	高校／660、大学／385	計 1,045名

その他 ・参加者全員にアンケートを Google Forms にて実施（鑑賞のみの生徒・学生・顧問も含む）  
・『女子体育』10・11月号報告特集号のお知らせを、アンケートのお願いと同時にメールで送付  
・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号に報告

## <概要>

新型コロナウイルス感染症の影響により、大会開始 33 年目にして初の大会見送りとなった。しかし、その状況下でもできることを検討し、オンラインダンスフェスティバルの開催を決定・実施した。

作品応募として3つの部門「ダンス川柳」「コラージュ」「フィジカルディスタンス」を設け、川柳やコラージュでは密を避け、身体を動かす以外のアプローチでダンスを捉えられるようにした。動画はチームで1分程度の作品とし、編集を行っても行わなくても良いとした。また伴奏音楽として AJDF のテーマソング 4 種類や著作権フリーの音楽を使用するよう規定した。応募されたコラージュや動画に関しては、3 密や著作権に配慮しているかを確認して配信を行った。

今回のオンラインダンスフェスティバル実施にあたり、新たに特設 HP を作成し、川柳の全作品を掲載した。また実行委員会で選出した川柳の優秀作品 12 句とコラージュ、動画は 1 本の動画に編集し、当日配信した。特設 HP には、他に実行委員会にて作成した「新型コロナウイルス感染症対策としてのダンス活動のためのガイドライン」を掲載した。参加校数は少ないが、当日鑑賞のみも含めた参加者数は延べ 1,000 人を超え、例年の 1/3 近くの人数となり、大会への関心の高さが窺える数字となった。

次年度も新型コロナウイルス感染症の流行の不安があるため、昨年度までの大会と同じ内容・形式では実施できないことが明白となった。次年度は大会の内容や上演の規定などが大きく変更となることが決定し、既に大会 HP にて告知済である。今後は大会要項の細かい部分についてさらに検討し、3 月上旬に大会要項を HP にて掲載する予定である。

## 2) 国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会（田中葵理事、原田理事）

### ① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

○国際女子体育連盟（IAPESGW）との連携

○JAPEW HP「国際情報」ページに、IAPESGW ニュースレターを配信している。また CID (International Dance Council 国際ダンス協議会)、IWG (International Working Group on Women and Sports 女性とスポーツの国際ワーキンググループ) を中心とした、海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

### ② 国際学会参加促進に向けた研修会の開催

期 日 2020 年 8 月 22 日（土）14:00-17:00

会 場 オンライン（Zoom） 委員会場：お茶の水女子大学

主 催 （公社）日本女子体育連盟

講 師 高野牧子副会長、飯田路佳副会長

内 容 IAPESGW について理解を深め、英語でのプレゼンテーションのイメージをつかむ

概 要 IAPESGW（国際女子体育連盟）国際会議を始めとした国際学会での発表に向け、会員の関心を高めるとともに、近年様々な場面で求められる英語でのプレゼンテーションやアブストラクト作成について基本的なスキルを習得する機会として、英語プレゼンテーションの研修会を行なった。コロナウイルス感染予防対策からオンラインのみでの開催とし、大阪府や愛知県からも含め、当日の参加者は 21 名（会員 11 名、学生 10 名）であった。内容としては、高野副会長と飯田副会長による IAPESGW 国際会議（JAPEW との関係や過去大会について）の講義と、英語プレゼンテーションについてのレクチャーとグループワークを行った。英語を専門とした講師ではなく国際交流委員が務めたことから、互いから学び合うことを重視し、zoom のブレイクアウトセッションを活用したグループワークの時間も設けた。事後アンケートから、グループワークが意義深く、参加者同士での交流の場にもなったことが見受けられた。次回に向けて扱ってほしい内容については、「今回のようなものを積み重ねていくのは勉強になる」、「自分のプレゼンを持ち寄って、だんだん内容に踏み込んで質問しあえるようになると良い」「英語での抄録、パワポ、論文要旨の英語表記」、「参加方法や注意事項等、国際大会に特化した説明講習」等の意見があった。これらを踏まえ、次年度も継続的に本研修会は続ける予定である。

③ (公社) 日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

- ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。
- 連盟の活動をIAPESGW News Letterへ投稿した。

④ 日本国内にある異文化グループや国際交流グループとの連携事業についての検討

- 学校や地域において、体育・スポーツ・ダンスを通じた異文化交流が推進できる方法を提案できるよう、情報収集を行った。

## 5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

### 1) JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会(高野美和子常務理事、長津理事、小松理事)

JAPEW 賞は社団法人(当時)日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代栄賞」が制定された。本年度は功労賞および指導者賞について候補者の推薦があり、2020(令和 2)年 10 月中旬に書面にて各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。受賞者へは、事前に表彰状と副賞を授与し(郵送)、サマーセミナー2020 開講式(2020 年 11 月 14 日)において受賞者の写真とコメントを掲載した表彰式映像をオンラインで配信し顕彰をおこなった。なお、受賞者氏名は機関誌『女子体育』誌上および HP 上で公表した。

① 第 7 回松本千代栄賞 該当者なし

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)川口千代、片岡康子、村田芳子、高橋和子、高野牧子、飯田路佳

② 第 9 回 JAPEW 功労賞

受賞者 小松恵理子氏(鹿児島県)、佃 陽子氏(兵庫県)、長津 芳氏(東京都)、  
松本富子氏(群馬県)

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)片岡康子、高橋眞琴、村田芳子、高橋和子、高野牧子、長津 芳

③ 第 17 回 JAPEW 指導者賞

受賞者 須古井京子氏(愛知県)、多田五月氏(東京都)、塚本順子氏(奈良県)、  
藤山幸江氏(鹿児島県)、山下昌江氏(千葉県)

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)山西哲郎、林眞幾子、笹本重子、飯田路佳、小松恵理子、高野美和子

④ 第 17 回 JAPEW 研究奨励賞

受賞者 福本まあや氏(お茶の水女子大学)

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)阿江通良、川口千代、細川江利子、高野牧子、宮本乙女、高野美和子

## 6. 広報・普及活動

□広報・普及委員会(高野美和子常務理事)

### 1) 各加盟団体との IT 化の推進

事務手続き効率化のため、各加盟団体間で IT 化を一層推進した。

### 2) 『女子体育』購読促進活動・会員増員のための活動

研修事業での新規(新卒学生含む)及び継続会員獲得、並びに購読期限切れ会員への対応を行った。

(事務局・総務・編集委員会との連携)



### 3) ホームページの内容充実及び開示情報の更新

- ・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- ・未来世代の研究発表会のエントリーをHP上で行った。
- ・事業報告、事業計画、財務諸表（決算書・予算書等）の情報を公開した。

### 4) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第37巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開した。